

今年もお盆の季節になりました。

お盆は、亡くなられた方と一緒に過ごす事が出来ると伝えられている期間です。

親子や夫婦は、仕事や学業で離れて暮らすことはあっても、いつでも会うことが出来る、一緒にいてくれて当たり前と思っている存在です。

しかし、いざ自分にとって、親子や夫婦など身近で大切な方が亡くなってしまうと、心にぽかんと穴のあいてしまったような、こんなにも寂しいものなのかと感じます。一緒にいてくれたことは当たり前のことではなく、かけがえのない存在であったことを、その時、身をもって知るのです。

親を亡くすと、自分の昔を失ってしまうと言われます。子供の頃の自分の姿を一番に覚えていてくれた人がいなくなってしまうのです。

もう少し親孝行をしておけば良かったと誰もが思います。しかし、どのような方法をとっても、もう十分に親孝行をすることが出来たと満足できる方は少ないのではないのでしょうか。

連れ合いを亡くすと、自分の今を失うと言われます。自分の今の生活が当たり前のことではなく、お互いに支え合っていたことをあらためて感じるのでしょうか。そして、多くの方がもう少し優しくしてあげればよかったと後悔されるかも知れません。

我が子を亡くすと、自分の思い描いていた未来を失うと言われます。自分の後のことを任せることが出来る子供を失う。また、何より我が子の大切な未来を失ってしまう・・・。深い悲しみに向き合う事になるのです。

お盆は、それぞれの別れの寂しさ悲しさを、残された私たちが供養^{くよう}という形をとおして、互いにかげがえのない存在であったことを思い、生きている時には尽くせなかった感謝の気持ちをあらためてお伝えする大事な期間なのでしょう。

さらに、生きている私たちが亡き方のご縁をとおして、互いに集うことにより、命のつながりを感じる事が出来る大切な時間です。

今年もまた、亡き方と一緒に過ごせるお盆がやってきます。